専攻科看護学専攻　前期

専門基礎科目／専門強化科目

1．国際看護論

2．看護における統計学の基礎

3．看護倫理

4．感染看護

5．看護ケアに生かす情報通信技術

6．地域包括ケア論 【通年】

7．ライフサイクルにおける看護支援

8．看護理論

9．臨地実践研修 【通年】

10．看護実践研究 【通年】

専攻科看護学専攻

科目名:	国際看護論	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	（卒業要件）必修/選択
		1	前期	専門基礎科目	講義	選択
担当教員:	長谷川雅美					

授業科目の学習教育目標の概要:

国際的視野で健康問題およびその背景を理解し、国際看護活動の果たす役割や先進国と開発途上国の健康問題の比較、異文化コミュニケーションの実際を学ぶ。

授 業 計 画	学習内容	担当教員
① オリエンテーション、学習内容の説明	国際看護を学ぶ視点	長谷川
② グローバルナーシングについて	グローバルナーシングとは	長谷川
③ 異文化・多文化と看護および看護の実際	異文化・多文化が看護に及ぼす影響について	長谷川
④ 地域社会における国際看護	我が国における国際看護の実際	長谷川
⑤ 様々な環境下での看護	災害、感染、戦時下などでの看護	長谷川
⑥ 国際的看護活動の実際1	事例紹介	長谷川
⑦ 国際的看護活動の実際2	事例紹介	長谷川
⑧ グループディスカッション	学生間での意見交換	長谷川

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート: 40 %	発表: 40 %	実技試験: %	その他: 20 %

使用テキスト:適宜、資料を配布する。	その他参考文献など: 南裕子監修:国際看護学（中山書店 ）

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
主体的な授業参加を希望します。様々な看護スタイルを学ぶとともに、文化や生活様式など国際的視点で、看護の在り方を発表してください。

専攻科看護学専攻

科目名:	看護における統計学の基礎	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	（卒業要件） 必修/選択
		2	前期	専門基礎科目	講義	選択
担当教員:	寺西　敬子					

授業科目の学習教育目標の概要:

データの性質把握、データの特徴の読み取り等を行うための基本的統計量及び統計的推定や検証を行う際に必要な統計量分布等について理解する。また、二つのデータグループ間の違いや関係を探索するデータ分析手法に習熟し、Excelの関数機能を使って、看護の現場で根拠に基づいた実践を実施するための基礎力を見につける。

授　業　計　画	学習内容	担当教員
①看護にける統計学の必要性	根拠に基づいた実践のための統計学の活用	寺西
②統計学の基礎（1）	データの種類と特徴、データ整理に必要な基本統計量（平均、最頻値・中央値、分散・標準偏差、相関）	寺西
③統計学の基礎（2）	量的データの記述的解析、グラフの作成	寺西
④統計学の基礎（3）	質的データの記述的解析、グラフの作成	寺西
⑤統計学の基礎（4）（演習）	Excelを用いて記述的解析、グラフの作成の演習を行う。	寺西
⑥推定と検定	母集団、標本集団、統計学的推論、帰無仮説	寺西
⑦平均の推定と検定	母集団の平均の推定、平均の差の検定	寺西
⑧割合の推定と検定	母集団の割合の推定、割合の差の検定	寺西
⑨相関と回帰	相関と回帰の考え方、違い	寺西
⑩オッズ比	2×2表における関連の強さを示す指標	寺西
⑪交絡因子の配慮	交絡因子および配慮の方法	寺西
⑫多変量解析について	複数の変数から他の変数を予測する方法。交絡因子の調整方法の一つとしての多変量解析とその限界。	寺西
⑬一致性の評価	質的データの一致度の評価、質問の回答の一貫性の評価	寺西
⑭Excel関数機能を活用した統計処理（1）	・Excel関数機能を使って、授業内容を確認するための演習を実施する。	寺西
⑮Excel関数機能を活用した統計処理（2）	Excel関数機能を使って、授業内容を確認するための演習を実施する。	寺西

成績評価の方法・基準:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト:	%	レポート:	50	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50	%

使用テキスト:	その他参考文献など: 基礎から学ぶ楽しい保健統計、医学書院、中村好一、ISBN:978-4-260-02549-2

受講上の留意点（担当者からのメッセージ）:

専攻科看護学専攻　　看護倫理226専1-104看護倫理

科目名:	看護倫理	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	（卒業要件） 必修/選択
		2	前期	専門基礎科目	講義	選択
担当教員:	大橋達子　　坂東紀代美					

授業科目の学習教育目標の概要:

治療への患者・家族の意思決定場面などでそれぞれの思いを 理解し、チーム医療に必要な倫理的配慮と看護師の役割について様々な葛藤を感じながらも考えることができた。倫理とは何か、医療の場において看護に求められる倫理とそれに基づいた援助とは何かを考え、事例検討を通して倫理的感性を高め、問題解決の取り組みを通してより良い看護について考えることができる。

授 業 計 画	学習内容	担当教員
1. 倫理学の基本的な考え方:	倫理原則、倫理理論、他社理解と対話のための理論	坂東
2. 生命倫理:	生命倫理とは、理論、看護職の責務、医療倫理に関する宣言・綱領	坂東
3. 性と生殖の生命倫理・死の生命倫理	移植看護、手術看護、認知症看護など	坂東
4. 先端医療と制度をめぐる生命倫理	患者の人権、インフォームドコンセント、など	坂東
5. 看護倫理とは:	意義、歴史、倫理原則、看護実践上の倫理的概念、看護実践と倫理	坂東
6. 専門職の倫理:	看護師の専門職倫理の発展の経緯、ICN看護師の倫理綱領	坂東
7. 看護職の倫理綱領（日本看護協会）	看護職の倫理綱領（日本看護協会）	坂東
8.　倫理的問題への対応 :	看護実践における倫理的問題の特徴、倫理的問題へのアプローチ（身体拘束・　訪問看護師の葛藤など）	坂東
9. 看護研究の倫理	看護研究の倫理	大橋
10. 課題:事例紹介・事例検討	小児看護、、母性看護、臨床試験における事例、地域看護など	大橋
11. 各自事例検討のテーマ、取り組む動機等発表	各自事例検討のテーマ、取り組む動機等	大橋
12. 各自事例検討	各自事例検討	大橋
13. 各自事例検討	各自事例検討	大橋
14. 各自事例検討発表	各自事例検討	大橋
15. 各自事例検討意見交換	各自事例検討	大橋
16.各自事例検意見交換	各自事例検討	大橋

成績評価の基準と方法:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定 とする

「レポート:50%」については，提出状況や内容についてを評価する。「その他:20%」については授業（演習）での参加姿勢（出席状況）や取り組み姿勢を評価する。

テスト: %	レポート: 50 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 20 %

使用テキスト:

適宜、資料を配布する。

受講上の留意点（担当者からのメッセージ）:
医療現場に潜む、倫理的課題に気づき、看護者として対象が持つ権利擁護ができる能 力を高め、対象の意思決定支援が行える看護者を目指す。 主体的・積極的に調査を行うなど前向きな姿勢で、授業に参加してください。

専攻科看護学専攻

科目名:	感染看護	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	（卒業要件）必修/選択
		2	前期	専門基礎科目	講義	選択
担当教員:	亀山礼子、高原紀子、 野村和代、大橋達子					

授業科目の学習教育目標の概要:

新型コロナウイルス感染症（COVID-19)をはじめ、昨今の様々な感染症に対する知識を習得し、対象者の苦痛を最小限に緩和する看護実 践を検討する。

授 業 計 画	学習内容	担当教員
① オリエンテーション、感染看護とは	授業の進め方、感染看護の歴史と感染の動向	亀山
② 感染症と感染経路	感染症と感染経路、滅菌と消毒、予防接種	高原
③ 感染症の診断・治療、コンサルテーション	感染症の検査と診断・治療、コンサルテーション、連携等	高原
④ 感染症の現状と対策	新型コロナウィルス、結核、その他感染症等	亀山
⑤ 感染症の現状と対策	地域における感染症対策	野村
⑥ 微生物の基本的知識	MRSA、ESBL、菌血症等	亀山
⑦ 感染症サーベイランス	感染症サーベイランス	高原
⑧ 感染症患者の看護	新型コロナウィルス感染症、結核、ＨＩＶ、流行性ウィルス疾患等	亀山
⑨ 感染看護の技術	CVなどの消毒、血液培養採取、針刺し事故、療養環整備等	高原
⑩ 感染予防や感染後の苦痛緩和に関する技術	対象者や家族の不安を和らげる看護等	亀山
⑪ 病院や施設、訪問系・通所系サービス等での感染事例に ついての現状調査	勤務先の感染事例の現状把握	大橋
⑫ 病院や施設、訪問系・通所系サービス等での感染事例に ついての現状調査	勤務先の感染事例の現状把握	大橋
⑬ ⑪⑫についてのまとめと分析、発表準備	勤務先の感染事例の現状のまとめ	大橋
⑭ ⑫についての発表・討議	勤務先の感染事例の現状発表	亀山・高原・大橋
⑮ 災害における感染症対策	災害に対する感染症の現状と対策	亀山

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート: 60 %	発表: 40 %	実技試験: %	その他: %

使用テキスト:	その他参考文献など:
適宜、資料を配布する。	感染看護学：南江堂、看護学テキストNice 感染に関する研究論文

受講上の留意点（担当者からのメッセージ）:
主体的・積極的に調査を行うなど前向きな姿勢で、授業に参加してください。

専攻科看護学専攻

科目名:	看護ケアに生かす情報通信技術	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	（卒業要件）必修/選択
		1	前期	専門基礎科目	講義	選択
担当教員:	泉 敏郎					

授業科目の学習教育目標の概要:

看護ケアに生かす情報通信技術は、医療現場における効率性、精度、安全性を向上させるために重要な役割を果たす。本授業では、患者の健康管理や医療チームの連携を向上させ、質の高いケアを提供するためのさまざまな情報通信技術について学ぶ。

授 業 計 画	学習内容	担当教員
①情報通信技術の種類	情報通信技術の種類と概要を理解する。	泉
②電子健康管理（EHR）	患者の医療情報を電子的に管理することによる、看護ケアの質向上について理解する。	泉
③モバイルヘルスアプリ	患者がモバイルアプリを使用して健康データを記録し、看護師と情報共有することで、患者の健康状態を管理できることを学ぶ。	泉
④テレヘルス	ビデオ会議やオンラインチャットを通じて、離れている患者と看護師がコミュニケーションを取れることを学ぶ。	泉
⑤バイタルサインモニタリング	バイタルサインを常時モニタリングし、患者の状態の変化を早期に検知して介入できることを理解する。	泉
⑥RFID（Radio Frequency Identification）	RFID技術を使用して、患者や医療機器の位置を追跡・監視し、効率的なケアを提供できることを学ぶ。	泉
⑦教育・トレーニング用技術	看護学生や新任の看護師に、シミュレーションや仮想現実（VR）技術を活用したトレーニングが有効であることを理解する。	泉
⑧看護決定支援システム	患者の診断や治療計画を立案する際に利用して情報を提供する支援システムについて学ぶ。	泉

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート: 50 %	発表: %	実技試験: %	その他: 50 %

使用テキスト:

その他参考文献など:
Nursing Informatics and the Foundation of Knowledge, Dee McGonigle, Kathleen Mastrian

受講上の留意点（担当者からのメッセージ）:

専攻科看護学専攻

科目名:	地域包括ケア論	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	（卒業要件）必修/選択
		3	通年	専門強化科目	演習	必修
担当教員:	今川　孝枝					

授業科目の学習教育目標の概要:

今後、人口が1億人を下回り、その約4割が高齢者というピークを迎えることが予測されており、医療・保健・福祉を担う看護職に期待される役割は大きい。このような情勢の中で、地域包括ケアの発展に寄与できる看護職としての基礎を強化するために、地域包括ケアの概念や法制度、仕組みを理解し、その人らしい暮らしができるための予防と支援について理解を深める。そのうえで、看護資格をもつ学生として実際についての調査や地域包括ケアの実現に向けて活動し、学内において報告会を行い知識を深める。

授　業　計　画	学習内容	担当教員
①　オリエンテーション、地域包括ケアシステムの背景と概要	シラバス確認、授業の進め方、地域包括ケアが考えられた経緯と政策	今川
②　政策の動向と地域社会の現状	政策と医療・保健・福祉の視点からの地域社会の現状	今川
③　地域に暮らす人びとの生活と健康	生活の中での健康と地域社会の役割	今川
④　地域づくりの現状 【小杉・下地区地域包括ケアセンター看護師】	小杉・下地区の地域づくりの現状	今川
⑤　地域で活動する高齢者の理解	三ケコミュニティセンターで健康的に活動する人々とのふれあい	今川
⑥　地域で活動する高齢者の理解		今川
⑦　地域包括ケアについての文献抄読	地域包括ケアについての文献を読みディスカッション、文献的考察	今川
⑧　地域包括ケアについての文献抄読、ディスカッション	地域包括システムによる支援事例:安心して暮らせる地域づくり、県内の状況把握	今川
⑨　地域包括ケアシステム実現に向けて	地区踏査に向けての準備（地区踏査の目的を達成するための実施方法と質問内容等の作成など）	今川
⑩　地域包括ケアシステム実現に向けて	地区踏査を行い射水市三ケ地区などの状況を把握する	今川
⑪　地域包括ケアシステム実現に向けて:射水市三ケ地区などの地区踏査の報告	地区踏査の結果報告と地域包括ケアのあり方、実現に向けて	今川
⑫　地区踏査の結果から地域包括ケアシステム実現に向けて	三ケ地区などでの活動支援（健康と暮らし）	今川
⑬　地区踏査の結果から地域包括ケアシステム実現に向けて	三ケ地区などでの活動支援（健康と暮らし）	今川
⑭　地区踏査の結果から地域包括ケアシステム実現に向けて	三ケ地区などでの活動支援（健康と暮らし）	今川

成績評価の方法・基準:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト:	%	レポート:	20 %	発表:	20 %	活動実践:	50 %	その他:	10 %

使用テキスト:
適宜、資料を配布する

その他参考文献など:
共生社会をめざす地域包括ケア論（メジカルフレンド社）王麗華他著
ISBN978-4-8392-1744-0

受講上の留意点（担当者からのメッセージ）:積極的な姿勢を望みます

科目名:	地域包括ケア論
担当教員:	今川　孝枝

授　業　計　画	学習内容	担当教員
⑮　地区踏査の結果から地域包括ケアシステム実現に向けて	三ケ地区などでの活動支援（健康と暮らし）	今川
⑯　地域包括ケアシステム実現に向けて：困ったときの支援先、連携・協働方法など　【特別講義：地域・在宅医療従事者】	家族支援、認知機能の低下により困難のある方への相談支援・権利擁護、その他支援などの具体例、 地域包括ケア実現に向けての連携・協働	今川
⑰　地区踏査の結果から地域包括ケアシステム実現に向けて	三ケ地区などでの活動支援（健康と暮らし）	今川
⑱　地区踏査の結果から地域包括ケアシステム実現に向けて	三ケ地区などでの活動支援（健康と暮らし）	今川
⑲　地区踏査の結果から地域包括ケアシステム実現に向けて	三ケ地区などでの活動支援（健康と暮らし）	今川
⑳　地区踏査の結果から地域包括ケアシステム実現に向けて	三ケ地区などでの活動支援（健康と暮らし）	今川
㉑　地区踏査の結果から地域包括ケアシステム実現に向けて	三ケ地区などでの活動支援（健康と暮らし）	今川
㉒　地区踏査の結果から地域包括ケアシステム実現に向けて	三ケ地区などでの活動支援（健康と暮らし）	今川
㉓　地域包括ケアと看護、まとめの報告	地域包括ケアと専門職としての看護職の役割	今川
㉔　地域包括ケアと看護、まとめの報告		今川

科目名:	ライフサイクルにおける看護支援	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	（卒業要件）必修/選択
		2	前期	専門強化科目	講義	選択
担当教員:	岩城直子、長谷川雅美、山元恵子、大橋達子、永山くに子					

授業科目の学習教育目標の概要:

人生の様々な年代における危機的状況や課題についてディスカッションを通して看護支援を実践するうえでの知識や技術を学習する。(乳幼児期、学童期、青年期、成人期、周産期、高齢期)

授 業 計 画	学習内容	担当教員
① ライフサイクルと健康	生活環境・習慣と健康生活,健康障害,ライフサイクルと健康課題	岩城
② 健康と看護の役割	健康生活と健康課題における看護の役割	岩城
③ 青年期・成人前期の成長過程における課題と看護の役割（母性看護学の視点から見る）	女性のライフステージと健康課題(周産期を中心に)	永山
④ 青年期(思春期)の成長過程における課題と看護の役割(母性看護学の視点から見る)	思春期における健康課題(妊娠中絶、性感染症、やせ)、性教育	永山
⑤ 小児の成長過程における課題と看護の役割	乳幼児期:未熟児、発達の遅れ、事故防止	山元
⑥ 小児の成長過程における課題と看護の役割	学童期:発達の障害と不適応行動について	山元
⑦ 青年期の成長過程における課題と看護の役割(成人看護学の視点から見る)	食生活、やせ、ワーキングプア、飲酒、喫煙	岩城
⑧ 青年期・成人前期の成長過程における課題と看護の役割(成人看護学の視点から見る)	成人前期の特徴、心理社会的自立と健康課題	岩城
⑨ 乳幼児期から成人前期までの課題と看護支援	中間まとめ:③～⑧をふまえた青年期までの課題と看護支援をまとめ発表	岩城
⑩ 成人中期の成長過程における課題と看護の役割(成人看護学の視点から見る)	ライフサイクルと家族の健康課題・成人中期で起こりやすい家庭内問題	岩城
⑪ 成人中期の成長過程における課題と看護の役割(成人看護学の視点から見る)	成人中期に起こる疲労・過労とその予防について	岩城
⑫ 成人前期・中期の成長過程における課題と看護の役割(精神看護学の視点から見る)	DV(Domestic Violence)、自殺、うつなど	長谷川
⑬ 高齢期の成長過程における課題と看護の役割(高齢者看護学の視点から見る)	老いを生きる、みとりなど	大橋
⑭ 高齢期の成長過程における課題と看護の役割(高齢者看護学の視点から見る)	平和な死・死者との別れ	大橋
⑮ 成人期・高齢期の課題と看護支援 まとめ	⑨～⑭をふまえた成人期以降の課題と看護支援を発表　まとめ	岩城

成績評価の方法・基準:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	%

使用テキスト:適宜、資料を配布する。
その他,各自の持っているテキストを参考(小児看護学概論テキスト、成人看護学概論テキスト、母性看護学概論テキスト、高齢者看護学概論テキスト:)とする

その他参考文献など:
1.平山朝子他,暮らしの中の看護-ライフサイクルと健康-,日本看護協会出版社 ISBN4-8180-0024-8
2.薄井担子著,看護のための疾病論 ナースが視る病気　ISBN4-06-204784-5
3.医療情報科学研究所編 看護がみえるvol.5対象の理解Ⅰ　ISBN978-4-89632-923-0

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):使用テキストは各授業担当者が選定したものを用いることとする。

科目名:	看護理論	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	（卒業要件）必修/選択
		2	前期	専門強化科目	講義	選択
担当教員:	岩城　直子					

授業科目の学習教育目標の概要:

看護理論の大理論、中範囲理論、実践理論について学び、実践への応用についての理解を深める。学習した理論をもとに自らの体験した看護について、理論的検証を行い言語化できる。

授　業　計　画	学習内容	担当教員
① 看護理論の実践・理論の分類	大理論、中範囲理論、実践理論の定義とその内容	岩城
②看護のメタパラダイムと理論	システム理論及びモデル、相互作用理論及びモデル、ニーズ、問題志向の理論及びモデル、エネルギー分野理論及びモデル	岩城
③ニーズ、問題志向型の理論及びモデル	フローレンス・ナイチンゲール、ヘンダーソン、アプデラ等	岩城
④相互作用理論	オーランド、トラベルビー、ペプロウ等	岩城
⑤システム理論	ロイ、レイニンガー、ベティ・ニューマン等	岩城
⑥エネルギー分野理論及びモデル	ロジャース、パースィ、マーガレット・ニューマン等	岩城
⑦実践を説明する理論①	危機理論(フィンク、アギュララの問題解決型危機モデル、ストレスコーピング理論)、 病気の不確かさ理論、レジリエンス	岩城
⑦実践を説明する理論②	オレムのセルフケア不足理論、病みの軌跡モデル、保健信念モデル、自己効力感	岩城
⑨個人ワーク(理論と実践の照合)	体験と理論の照合	岩城
⑩個人ワーク(理論と実践の照合)	照合する理論の発見	岩城
⑪個人ワーク(理論と実践の照合)	体験と理論の整合性の確認と言語化 発表内容をPPにまとめる	岩城
⑫個人ワーク(理論と実践の照合)	体験と理論の整合性の確認と言語化 発表内容をPPにまとめる	岩城
⑬個人ワーク(体験と理論の構造化)	体験と理論の整合性の確認と言語化 発表内容をPPにまとめる	岩城
⑭発表会	体験と理論を言語化し発表	岩城
⑮発表会とまとめ	体験と理論を言語化し発表　まとめ	岩城

成績評価の方法・基準:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト:	%	レポート:	70	%	発表:	20	%	実技試験:	%	その他:	10	%

使用テキスト:なし
適宜資料を配布する。

その他参考文献など:
1.看護理論-看護理論21の理解と実践への応用(南江堂)
2.看護理論集集(第 3 版) 日本看護協会出版会
3.実践に生かす看護理論19(サイオ出版)
4..看護実践に活かす中範囲理論(メヂカルフレンド社)
5.看護理論家の業績と理論評価(医学書院)

個人ワークで、理論を一つ選択し、その理論をもとに自己の実践をまとめ、プレゼンテーションを行う。看護実践のエビデンスを高める理論の意識的適応を体験する。

専攻科看護学専攻

科目名:	臨地実践研修(インターン)	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択
		10	通年	専門強化科目	実習	必修
担当教員:	長谷川　岩城　大橋　坂東					

授業科目の学習教育目標の概要:

看護師として日々の看護体験を理論とつなげエビデンスを明確にする。
課題に主体的で科学的な姿勢で向き合い、看護実践から得た知識やアセスメント、今後の課題をポートにし50題提出する。
時代時代のニーズに応えることができる高い判断力、確実な技術を持った実践力を高める。
看護実践研究につなげる。

授 業 計 画	学習内容	担当教員
オリエンテーション 担当教員決定	1年の計画と進め方、看護実践の評価(レポート50枚)のオリエンテーション	全教員
前期実践研修8h/30day。 1回3・4限/1週間学内にて技術演習　一人一人技術演習を担当し技術の目的、注意事項、病態生理等の資料を作成し、プレゼンテーションを行う。	看護計画立案、日々の活動から管理を学び、目標・課題につなげ成長をレポートにする。 看護実践研究への課題を明確にする。	全教員
中間カンファレンス	それぞれの学びを参考に、自分の活動を振り返り、後期につなげる。	全教員
後期実践研修8h/24day	看護計画の評価を実施し、実践研修での成長に関してを前期・後期合わせて50題のレポートを作成。	全教員
看護実践研修の最終カンファレンス	学修の評価、成長の報告、意見交換。	全教員

成績評価の方法・基準:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

成績評価の方法・基準:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	レポート: 50 %	発表: 40 %	実技試験: %	その他: 10 %

使用テキスト:
適宜、資料を配布する。

その他参考文献など:

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
日々の実践を振り返り、グループで意見交換、看護に対するリサーチクエスチョン、文献検索、結果へのアセスメント、考察、今後の課題など一連の看護過程を理解していく。
また、担当教員との面談を行い、目標設定等計画的に進めていく力をもち学修活動を行ってほしい。

専攻科看護学専攻

科目名:	看護実践研究	単位	開講時期	科目の区分	授業方法	（卒業要件）必修/選択
		5	通年	専門強化科目	演習	必修
担当教員:	長谷川 雅美、坂東 紀代美、岩城 直子、大橋 達子、今川 孝枝、安達 寛人					

授業科目の学習教育目標の概要:

看護現場におけるインターンシップで、研究テーマを見出し、研究計画書の作成、倫理的配慮、データ収集・分析といった一連の研究プロセスを学び、論文にまとめ発表する。

授 業 計 画	学習内容	担当教員
① オリエンテーション 授業の進め方について	看護研究を遂行する上での約束事	長谷川
②～④ 看護研究の進め方・研究テーマと目的	実践研究テーマ・目的について検討	長谷川
⑤～⑦ 研究計画書作成の手順	目的、分析方法、文献検索、論文作成などの具体的方法について講義	長谷川
⑧～⑩ 研究計画書作成	研究計画書作成の実施と点検	全教員
⑪～⑫ 研究計画書作成	研究計画書修正および完成 （最終確認:長谷川）	全教員
⑬～⑭ 看護研究倫理について	人を対象とする看護研究倫理審査用紙作成（チェックリスト含む）	全教員
⑮⑯ 看護研究倫理審査	研究倫理審査を実施し、修正後承諾を得て研究開始とするプロセスの実施	長谷川
⑰～⑳ データ収集	施設、研究対象者への説明と承諾後、デー収集開始	全教員
㉑～㉘ 研究計画に基づいた分析と結果から考察の推敲	一連の論文作成プロセスに沿ったデータ分析と評価の実施	全教員
㉙～㊲ 論文作成	論文形式に沿った論文作成	全教員
㊳㊴ 論文審査	規定日までに提出された論文の審査	長谷川
㊵ 論文発表会	学内での発表会で発表する	全教員

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

テスト: %	論文: 80 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: %

使用テキスト:適宜、資料を配布する。	その他参考文献など:質的研究の進め方・まとめ方（医歯薬出版）、質的研究Step by Step（医学書院）、質的研究と量的研究のエビデンスの統合（医学書

z受講上の留意点（担当者からのメッセージ）: 主体的、積極的に取り組み、研究プロセスを修得してください。相談したいことがあれば可能な限り対応します。（必ずメールでアポイントしてください。）